東大阪市民プラザだより

発行
東大阪市市民プラザ
指定管理者
株式会社ビケンテクノ
〒564-0044
大阪府吹田市南金田
2丁目12-1
06-6380-2141
年3回発行

話題を呼ぶご当地PR動画

地方自治体でも積極的に活用

5年で4倍成長した動画広告

スマホの急激な普及は、テレビなどマスメディアの動画広告の世界を一変させました。今後、企業だけでなく自治体やNPO団体でも、動画による情報発信の重要性がますます高まっています。動画とどう関わっていくべきなのか考えてみました。

大手インターネット広告事業者が２０１５年に実施した調査によると、２０１５年に５０６億円だった動画広告市場が、２年後の２０１７年には１０９３億円、２０２０年には２０００億円を突破すると予想しました。スマートフォンの急速な拡大により、僅か5年で約4倍の成長を遂げた動画広告は、ＳＮＳとの相性の良さから世界中にＰＲできる発信力・拡散力などに注目が集まり、省庁や地方自治体でも積極的に活用しています。自治体のＰＲ動画制作は、主に観光客誘致のために制作する事が多いのですが、人口減少の時代に、わがまちへの移住促進を目的としたＰＲ動画も多く作られています。自治体の動画制作に助成金が交付されたことで、人気タレントや著名プロデューサー、有名ユーチューバーを起用した動画が次々に制作されてネットを賑わしています。

２０１６年に公開された宮崎県日向市のご当地ＰＲ動画「Ｎｅｔ ｓｕｒｆｅｒ ｂｅｃｏｍｅｓ Ｒｅａｌ ｓｕｒｆｅｒ」は、２０２１年２月現在、百万回以上も視聴されています。

この作品で象徴されるように、多くの自治体が制作した「ご当地ＰＲ動画」は、いずれもしっかりしたコンセプトで作られ、ショートムービーやＭＶ並みの高いクオリティーの動画が多く見受けられます。

東大阪市でも、市役所のウェブサイト「東大阪市の魅力」の中に「東大阪を動画で紹介」コーナーを設け、12本の動画を公開しています。

ＭＡＤＥ ＩＮ ＨＩＧＡＳＨＩＯＳＡＫＡ、東大阪市紹介ＶＴＲ、ＳＰＩＮ ＴＨＥ ＧＬＯＢＥ、ＧＯ ＡＲＯＵＮＤ（ｍｏｎｏｚｋｕｒｉ ｃｉｔｙ ｈｉｇａｓｈｉｏｓａｋａ）、Ｈｉｇａｓｈｉｏｓａｋａ Ｐｒｏｍｏｔｉｏｎａｌ Ｖｉｄｅｏ等々、いずれもおしゃれで、高いクオリティーのコンテンツです。

デジタルアーカイブによるまちづくり

日本にアマチュア映像の文化が生まれたのは、１９２０年代後半と言われています。当時は、フィルムカメラで撮影していました。16ミリ、8ミリ等がありましたが、カメラもフィルムも高価で、高嶺の花でした。やがて１９８０年代になると、ビデオカメラに移行して、小型で撮り直しもでき、家族の日常風景を記録した「ホーム・ムービー」と呼ばれる映像がたくさん生まれました。当市でも各地域の家庭に、家族の様子やまちの景観などを記録した古い写真、16ミリフィルムがたくさん眠っていることと思います。しかし、それらはやがて消滅する運命にあります。これらの映像をデジタル化して保存し、後世に継承していくことで、唯一無二の文化財を劣化・損傷・消滅によるリスクから守れます。このようなデジタル・アーカイブ事業は、地域コミュニティの活性化、地域愛の醸成等、情報発信能力の向上等、まちづくりへの成果も期待できます。

KITATUBER

そんな中で、大阪市北区役所が平成３０年度に実施した「北区の魅力映像制作及び発信事業」で誕生した「ＫＩＴＡＴＵＢＥＲ」は異彩を放っています。ＫＩＴＡＴＵＢＥＲは、北区在住の区民がビデオリポーターになり、自らが撮影、編集して、北区の魅力を発信するｙｏｕｔｕｂｅの公式チャンネル「ＫＩＴＡＴＵＢＥＲ」に公開するものです。コンセプト、脚本、撮影や編集技術は、プロには敵わないのですが、大阪市北区に住まいし、働き、学んでいるからこそ作ることができる地域の魅力あふれる映像作品が生まれています。

区民リポーターは、公募で集まった区民の皆さんに、延べ3日間の映像制作ワークショップで、専門家からレクチュアを受け、自分が発信したいと思う北区の魅力を考えて撮影、編集まで全てを出来るようになります。

２０２１年２月現在のチャンネル登録者数６６人 アップロードされた動画は６７本、視聴回数は、５６１２回です。

スマートフォンの普及は、誰でもが動画を撮影・編集・発信できるようになりました。半面、人々の動画を観るスタイルをも変えました。インターネット上の動画の多くは、スマホで見られています。大多数の人が音を出さずに映像だけを見ています。長さもせいぜい1分以内です。ご当地映像もこの視聴スタイルを意識して作る必要があります。

映画発明から１３０年、初期のサイレントムービーのように、字幕を入れる等の工夫でご当地の魅力をアピールすることも出来るように思います。

第3号　東大阪市民プラザだより　令和3年 4月１日

SDGsとまちづくり

ＳＤＧｓとは２０１５年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟１９３か国が２０１６年から２０３０年の１５年間で達成するために掲げた目標です。１７のゴールと１６９ターゲットで構成され，地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

地球温暖化の進行、エネルギー資源の枯渇、自然環境汚染による生態系の破壊など、さまざまな地球環境問題が顕在化し、深刻化しています。現代は、次世代に地球や豊かな生活を残していくための最後のチャンスです。２０３０年に向けた、持続可能な社会をつくるための17の目標を掲げたのがＳＤＧｓです。外務省のＨＰには企業や自治体、ＮＰＯ、教育研究機関、メディアなどの取り組み事例がたくさん掲載されています。

住み続けられるまちづくりを

17の目標の11が、「住み続けられるまちづくりを」です。「住み続けられるまち」とは？その答えは、人々が置かれている状況や、背景によって大きく異なるかも知れません。

東大阪市は大都市です。大勢の人が住み、たくさんの住居、商業施設、会社や工場、公共施設が集まっているとともに、学校、交通や金融など生活に欠かせない様々な基盤もそろっています。

現在、都市に暮らす人は、世界の人口の半分以上の55％ですが今後ますます都市に住む人が増えると考えられています。２０５０年には６８％となり、世界の人口の３分の２が都市に住むと予想されています。しかし、我国では、高齢化が進み、人口減少などの容易に解決できない課題にも直面しています。

それだけ大勢の人が快適に暮らせるよう、「住み続けられるまちづくり」を目指すことが大切です。

ＳＤＧｓのまちづくり

「まちづくり」の概念は曖昧で、色々な解釈があるように思います。

「まちづくり」とは、文字通り「まち」を「つくって」いくことなので、道路や建物等のハード面と、生活全体のソフト面とを含んでいます。

よい「まち」とは、そこに住むすべての人々の日常生活が支障なく過ごせ、安全で、安心して豊かに暮らせ、更に大規模災害等の緊急時にも地域のひとたちが互いが助け合える「まち」であり、住んでいてよかったという実感を心から持てれば、次の時代にも継続が出来るのではないかと思います。

ＳＤＧｓのまちづくりでは、地域独自の新しいアイデアも重要だと思います。また、それを発信する発信力も必要になると考えられます。

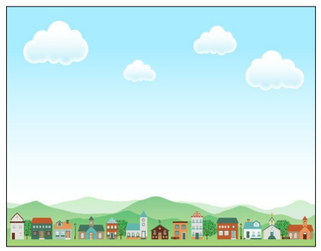
一方で、日本の多くの大学でもＳＤＧｓの活動が徐々に広がりつつあります。

大学がＳＤＧｓに取り組む理由はさまざまですが、産学官連携もその一つですが、ＳＤＧｓが現代の大学生世代のニーズに合っていることも挙げられると思います。

東大阪市の近畿大学でも、大学のホームページ〉社会連携研修センター〉ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）という特設ページを設けて様々な取組を紹介しています。例えば２０１９年に八尾市×近畿大学連携プロジェクト「八尾×近大 若者ワールドカフェ」を開催して、八尾市内の高校生20名と近畿大学生とが「どんなまちに将来住みたいか」をテーマに意見交換を行っています。

その中で高校生、大学生から「子どもが豊かな経験ができ、子ども同士がつながりあえるまち」や「子どもが育ちやすい、親が子育てしやすいまち」、「教育・保育施設が充実したまち」など、さまざまな意見が上がりました。若者らしいまちづくりへの提言であると思います。

ＳＤＧｓ目標11は、コミュニティの絆と個人の安全を強化しながら、イノベーションや雇用を刺激する形で、都市その他の人間居住地の再生と計画を図ることを目指したものです。新型コロナウィルス感染症の終息が未だ見通すことができない今こそ、人と人を結ぶ絆が「住み続けられるまちづくり」の重要なファクターなのではないかと考えます。



キネマ・インプレッション（おもひで映画館）

ALWAYS三丁目の夕日

ＳＤＧｓをもっと知るための映画として「ALWAYS三丁目の夕日」をおすすめします。

この映画は、我国が戦後の高度経済成長期に入った昭和30年代を描いた映画で、2005年に公開されています。舞台は東京の下町で自動車工場を営む鈴木家。そこに青森から上京した六子や近所に住む小説家を目指す茶川らが繰り広げる笑いあり涙ありの日常を描きながら、近所の人達との繋がりや家族愛等心温まる映画に仕上がっています。

当時の乗物や建物、街並み等も、最新の映像技術で見事に再現していて、昭和にタイムスリップさせてくれます。

この映画を見ると何故か、人恋しくなります。

昭和30年代、住宅事情も今とは比べようもないくらい狭く、人々は額を寄せ合うようにして暮らしていました。しかし、人と人のつながりは、今以上に強かったのだということを考えさせられる映画です。

住み続けられるまちづくりのヒントが、案外こんなところにあるように思える作品です。

プラザニュース

2021年度講座・イベントラインナップ

2021年度イベント・講座ラインナップ

4月です。今月は新年度の始まりで、市内７つのリージョンセンターでは、市民の皆さまのコミュニティー創造の場としてご利用頂けるよう、さまざまなイベントや講座を企画しました。今年度のラインナップからいくつかをご紹介します。
気になるもの、チャレンジしてみたいもの、お友達と参加してみたいと思うものは？

LINEUP

紙ずもう　東大阪場所

子どもも大人もハッケヨイ!
紙で作ったお相撲さんを紙の土俵の上に載せ、とんとんと振動させて相撲を取らせて勝敗を競う昔懐かしい遊びです。
トントン紙相撲東大阪場所、さて幕内最高優勝は誰の手に…

お花で伝える　ありがとう

母の日は、普段は照れくさくて言えないような感謝の言葉を、お花のプレゼントと一緒に伝えることができる日です。1年にたった1回しかない特別な母の日にフラワーアレンジメントと、「いつもありがとう」「体を大切にね」などと書いた感謝のメッセージを添えて贈りましょう。

デザインを楽しむ「サブローごま」

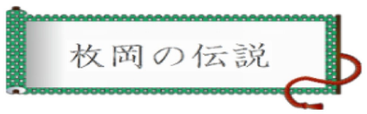
デザインを楽しむ「サブローごま」のワークショップです。デザインコンテスト応募作品をみんなでつくろう！伝統的なコマをアレンジした人気のサブローごま、世界でひとつのオリジナルデザインごまをつくって遊びませんか。はじめはうまくできないけど、色々学び、経験を重ねて成長してゆきます。

防災イベント

H24.8.29の国の公表資料等から大阪府危機管理室がまとめた「南海トラフ巨大地震に関する地震・津波ハザード」によると、内陸部に位置する東大阪市でも、状況によっては震度６弱～６強の震度が想定されていて、揺れに対する備えは必要です。この他にも水害などの大規模な自然災害への備えに役立つ情報や対策を紹介します。

語りべ　～枚岡の伝説～

旧枚岡地区に残る数々の伝説を、次世代に語り継ぐイベントです。
1978年（昭和53)に刊行された「枚岡の伝説」をナレーターやフリーアナウンサーが語ります。会場は人と人をつなぐ空間、日下リージョンセンター「いろりの間」です。数百年の時空をつなぐ新たな出会いと発見の場になるでしょう。



ハスの花を咲かそう

東大阪市は、日下の原始ハスや、近江堂周辺にかつてあったハス池、奈良時代に中将姫がこの地に生息したハスで糸を紡ぎ、一夜にして大曼荼羅を織ったというエピソード等、ハスに纏わる物語が多くあります。リージョンを紙でつくるハスでいっぱいにするプロジェクトです。

発酵教室

味噌、醤油、納豆、日本酒など、日本の発酵文化はとても素晴らしく、発酵食品は。私たちの日々の食生活に欠かせないアイテムです。江戸時代から受継ぐ老舗の匠技をお教えする白みそや甘酒等の発行食品の料理教室です。若江岩田、四条リージョンで開催予定

今年の漢字

皆さんにとって、2021年はどんな1年になって、それを表す漢字一字はどんな字になるのでしょう？東大阪市リージョンセンターでは、2021年も「今年の漢字」募集します。ご応募は各リージョンセンター受付の専用応募用紙をご用意します。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

アダム・スミスは、道徳感情論で人間は、他者という存在と「共感」し、哀れみや同情を抱ける能力があると述べています。
心地よい地域社会は、“共感”から生まれるような気がします。
共感力は、人の気持ちを汲んで寄り添うことができる力だと思います。

ストレッチ・ヨガ

ヨガとストレッチは、どちらも柔軟性を高めるエクササイズです。
楠根リージョンセンターで毎月3回～4回レッスンを開催します。

BB教室

ＢｏｄｙとＢｒａｉｎの双方から健康、そして元気になり、健康寿命の延伸に繋がる教室です。
中鴻池、近江堂の各リージョンセンターで開催

Please follow me

★SNSやブログから、イベントや講座、東大阪市内のトピックを発信しています。リージョンセンターの色々な情報を得る手段として、市政だよりとともに、ご利用ください。フォローは右のQRコードから★

Twitter　Instagram　Blog

HIGASHIOSAKA.SP7